



「Qの会」平成26年度総会  
第19回研修会報告

6月22日香川大学において、「Qの会」平成26年度総会・第19回研修会が開催されました。

今回の研修会は「糖尿病と地域連携」のメインテーマで、「地域連携から考える糖尿病支援」についての講演と「香川県における地域連携の現状と問題点」について事例検討をしました。また、「Qの会」調査研究委員会、昨年JADENにて発表された「香川県の糖尿病看護における糖尿病地域連携の実態とニーズに関する調査」についての報告がありました。

講師はJAS山口厚生連周東総合病院地域医療福祉連携室保健師 佐川京子先生でした。

講演では佐川先生が地域連携に配属になり苦情処理から始まり、実態調査・研修を交えた情報交換会・情報提供書の作成など地域のクリニック・施設・医師会や行政まで巻き込んだ活動報告は、驚きと勇気を与えてくれました。また、事例紹介で地域に返す患者さんに対して、細かな視点で配慮されており「当たり前」なように当たり前に「当たり前」なことで考えさせられました。

事例検討会では、障害があってもその人らしい生き方ができる援助の大切さを話し合いの中で学ぶことが出来ました。研修会直前、平成26年度Qの会総会があり、平成25年度の事業・会計報告、平成26年度の事業計画・予算案が可決されました。また、10周年記念大会についての討議も行われ指針が決定しました。



講師 佐川京子先生

研修会のアンケート結果

第19回研修会参加者42名のうち38名より回答をいただきました。参加されたきっかけは「単位取得のため」が最も多く「テーマに興味があった」「糖尿病看護実践において問題を解決するため」「専門性を高めるため」となっています。

講師については「具体的に分かりやすかった」「参考になり実践に繋がる内容で良かった」「困ったことを放置せず解決を求めて出来ることから勧め活動を広げていくことが分かり大いに刺激になった」などがありました。

内容については、「おおいに良かった・良かった」という意見がほとんどでした。理由として、「地域連携で知らないことが多かった」「自分の課題が見つかった」「退院支援に対する見方が広がった」「地域連携につなげる情報がわかった」などがありました。

事例検討については「自分の知らない領域についてよく分かりどこから勉強すればよいかきっかけが見つかった」「訪問看護・地域連携の実際の仕方がわかった」。

今後の研修についての希望は「地域連携第2弾で香川での在宅・地域連携の現状・保健師やケアマネジャーからの症例を交えた研修」「糖尿病の「患者の行動変容」について」「腎症から透析導入・透析管理までの支援について」などがありました。

なお、アンケート結果は、グラフもご参照ください。  
ニュースレターについてのアンケート結果

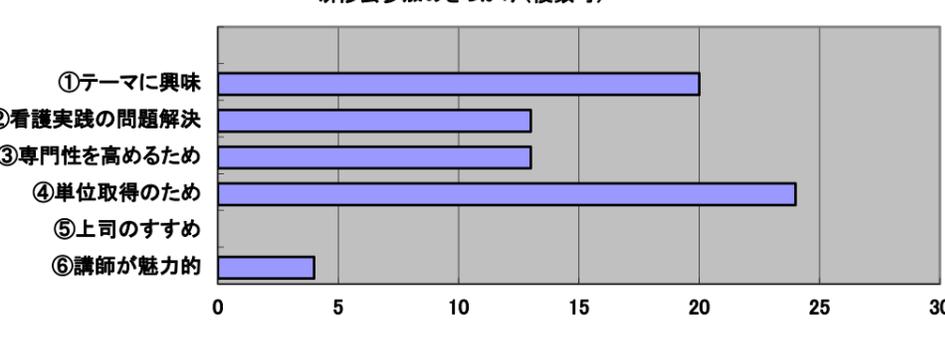
「いつも読んでいます。時々読んでいます」人が90%。その理由に「研修会アンケート結果や感想があり振り返りができる」という意見でした。  
内容について「おおいによかった・まあまあ良かった」という人が90%でしたが、あまり

良くなかったという人も4人いました。その理由として「コンパクトに内容を伝えてくれるので読みやすい」「字が小さく見づらい」という意見がありました。今後、字を大きくするように検討したいと思えます。

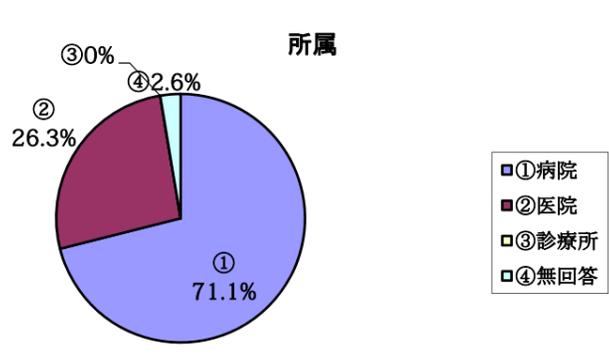
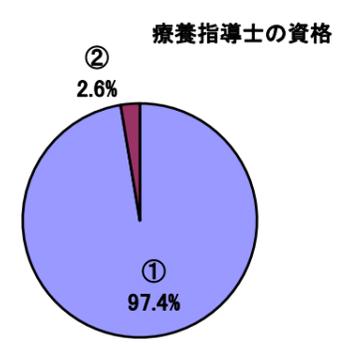
希望するテーマ・内容としては、「Qの会の会員さんの病院での療養工ヒストリーみたいなのを」「ほっとする話や患者さんのイベントなど、ちよっと癒される話」「タイムリーな話」という意見がありました。貴重なご意見ありがとうございました。

私達もQの会の会員全体で作るニュースレターにしたいと思っています。皆様、ぜひ療養工ヒストリー等何でもよいので下記FAXかメールでお送りください。

研修会参加のきっかけ(複数可)



研修会風景



- 第20回香川県糖尿病療養指導士看護ネットワーク「Qの会」研修会・10周年記念大会のご案内
- 日時：10月19日(日) 10時から14時  
場所：高松ロイヤルパークホテル 3階シルクホール  
メインテーマ  
『「Qの会」の歩み、これまで』  
講師：宮武陽子先生  
石田俊彦先生
- 学会・研修会のご案内
- 認定更新のための研修単位が取得できる予定の研修会をお知らせします。
- ★第19回日本糖尿病教育・看護学術集会・・・第1群または第2群 4単位  
日時：2014年9月20日(土)～21日(日)  
場所：長良川国際会議場  
連絡先：FAX 03-3508-13002
  - ★第12回中国四国糖尿病研修セミナー・・・第1群または第2群2単位  
日時：2014年9月28日(日)  
場所：松山市総合コミュニティセンター  
連絡先：FAX 086-250-7682
  - ★第52回中国四国地方会・・・第2群4単位  
日時：2014年10月24日(金)～25日(土)  
場所：リーガロイヤルホテル広島  
連絡先：FAX 082-505-0566
  - ★第32回 糖尿病診療―最新の動向―医師・医療スタッフ向け研修講座・・・第2群1単位  
日時：2014年11月23日(日)  
場所：TKPガーデンシティ広島  
連絡先：FAX 03-3202-9906
  - ★第49回 糖尿病学の進歩・・・第2群4単位  
日時：2015年2月20日(金)～21日(土)  
場所：岡山コンベンションセンター等  
連絡先：FAX 086-225-9300

「糖尿病の合併症治療を受ける患者の看護を通して」  
医療法人財団大樹会総合病院回生病院 西山紀子

私は、就職し最初の7年は整形外科病棟に勤務していましたが、糖尿病によって下肢壊疽で切断が必要となり患者が入院していた。印象に残ったのは、20年前から糖尿病と知っていただけで放置して、40歳になって下肢切断に至った患者だった。その時、20年間、糖尿病の治療をしていけば、切断に至らなかつたのではないかと考えた。また、HCUに4年、勤務した際、糖尿病腎症で透析導入が必要な患者を看護し、糖尿病の血糖コントロールを確実にすることで、発症を防いだのではないかと考えた。糖尿病の患者の慢性合併症を予防するための知識と技術の習得と共に、急性合併症(低血糖・糖尿病ケトアシドーシス・高血糖高浸透圧症候群など)の看護について根拠を持って理解していきたいと思った。

そして、急性期治療の中で待っているのは糖尿病の合併症の発症予防にはつながらないのではないか、慢性疾患を知り糖尿病教室なども行い、糖尿病の合併症を予防していきたいと考え、内科病棟へ部署移動をした。2010年、社会保険看護研修センター認定看護師教育課程糖尿病看護学で、第一期生として、学ぶ機会を得ることができた。院内で開催されている糖尿病コースで学んだことが活かされ、院外で学ぶ機会を得たことについて、支援してくださった皆様に感謝している。研修は2010年9月～2011年3月までの7ヶ月間あり、2011年5月に行われた日本看護協会の認定審査試験に合格することができた。

研修センターでは、糖尿病看護認定看護師として活動してこられた2人の担任教員や講師の方々の熱心な授業の中で、糖尿病看護における根拠や考えを聞くことができた。そして、臨床実習中などを通して支えてくれた先生方が居てくれたから、修了できた。また、学友と過ごした7ヶ月間は、私は寮生として過ごしたので、発表会や試験前になると、多くのアドバイスをもらい、夜遅くまで一緒に勉強をしたことは、学友の志の高さを感じると共に、私にとって良い思い出になった。

看護の中で、いち早く患者の状態を知る洞察力を持ち、患者が望む人生が歩めるよう支援することを大切に糖尿病看護認定看護師として活動していきたいと思つた。

そのような思いの中、私は糖尿病教育入院を受け入れる病棟に所属し、2年が経過した。ある日のこと、「足に傷ができています」と相談を受け、患者は「草履に足を噛まれた」と表現された。人を理解するには、文化を理解することが必要であると教わったことがあった。方言を含む文化をふまえて看護する必要があることに気付かされた。また、糖尿病の合併症の発症予防に関わることが出来る日々を大切に思い、原点に帰り、糖尿病看護の実践をしていきたいと思つた。

◆編集後記：今回の研修で、糖尿病は予防から合併症として地域に返す事ほとんどに広い範囲の看護を必要としているのだなとつくづく思いました。  
広報担当 木村裕美・串田久美